

平成30年度

病院事業会計決算の概要

決算概要

経営企画課財政係 ☎ 23-3311 (内線3706)

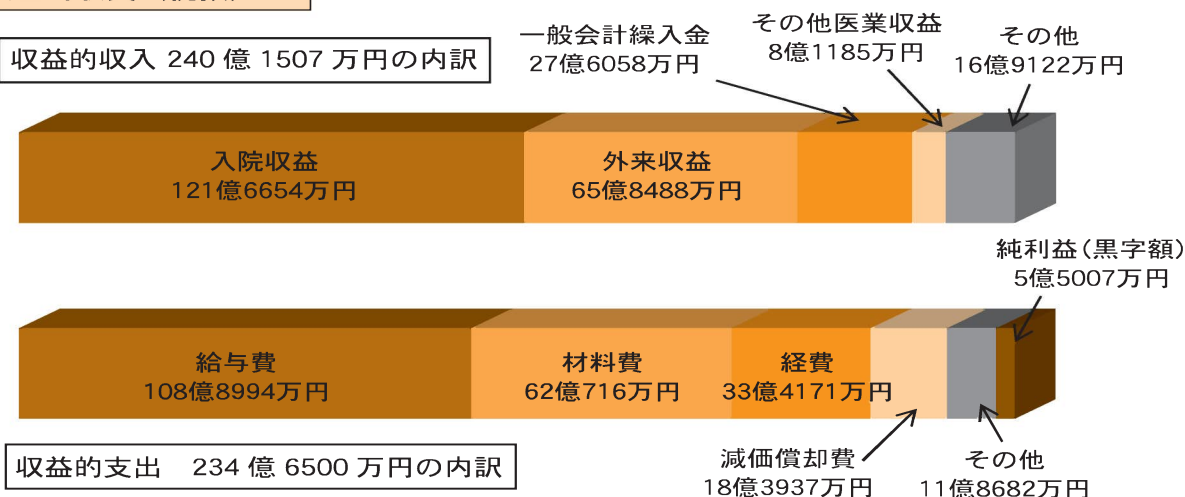
平成30年度は、「新大崎市民病院改革プラン」の具体的な行動計画となる「大崎市民病院事業病院ビジョン」を6月に策定し、その目標達成に向け、本院と分院、診療所が機能分担を図り、病院運営を行いました。

主な事業としては、本院では、がん診断に有用なPET-CT（陽電子放射断層撮影装置）を最新機器に更新し、臨床検査部では、全世界で適用される規格である国際規格「ISO15189」の認定を受けました。鳴子温泉分院では、新病院建設に向けて基本計画及び基本設計を策定するとともに、病床再編を実施しました。岩出山分院では、リハビリテーション施設を建設し、鹿島台分院では、地域包括ケア病床の稼働や病床再編を実施しました。田尻診療所では、聴力検査機器のオーディオメーターを更新し、健康管理センターでは、MRI（磁気共鳴画像診断装置）を更新しました。

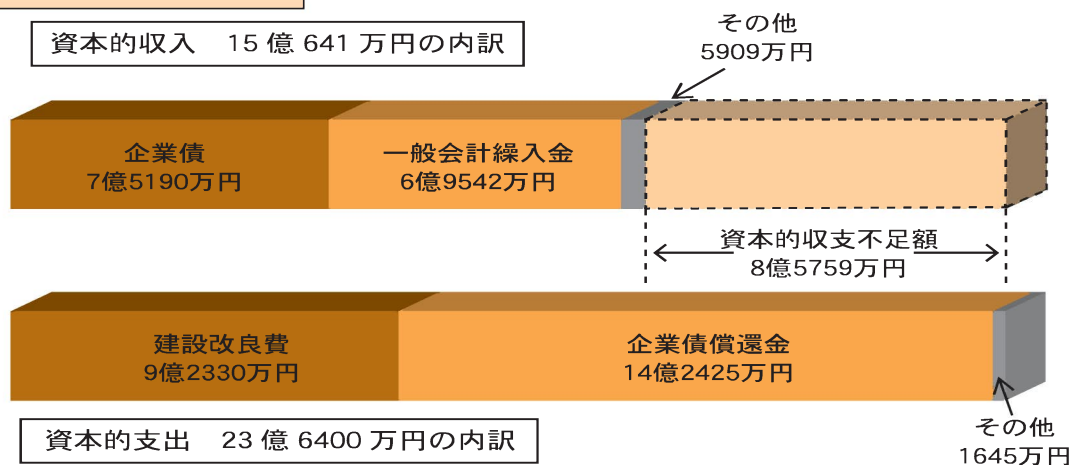
決算では、病院事業収益と病院事業費用の差引が、5億5,007万円の黒字となり、前年度に引き続き2年連続の黒字決算となりました。収益は、平成30年4月の診療報酬改定へ確実に対応したことによる各種加算の継続取得が図られ、特に本院では、心臓血管外科の手術件数の増加等により医業収益が増加したことなどから、病院事業全体の収益は、240億1,507万円となりました。一方費用は、抗がん剤等の高額薬品等の使用量の増加により材料費は増加しましたが、減価償却費等の減少により医業費用が減少し、病院事業全体の費用は、234億6,500万円となりました。

今後も病院理念である「市民が安心できる医療の提供」に基づく病院運営を念頭に、各施設がそれぞれの役割を十二分に果たし、医療の質の向上と地域医療の充実に努めてまいります。

収益的収支〈税抜〉

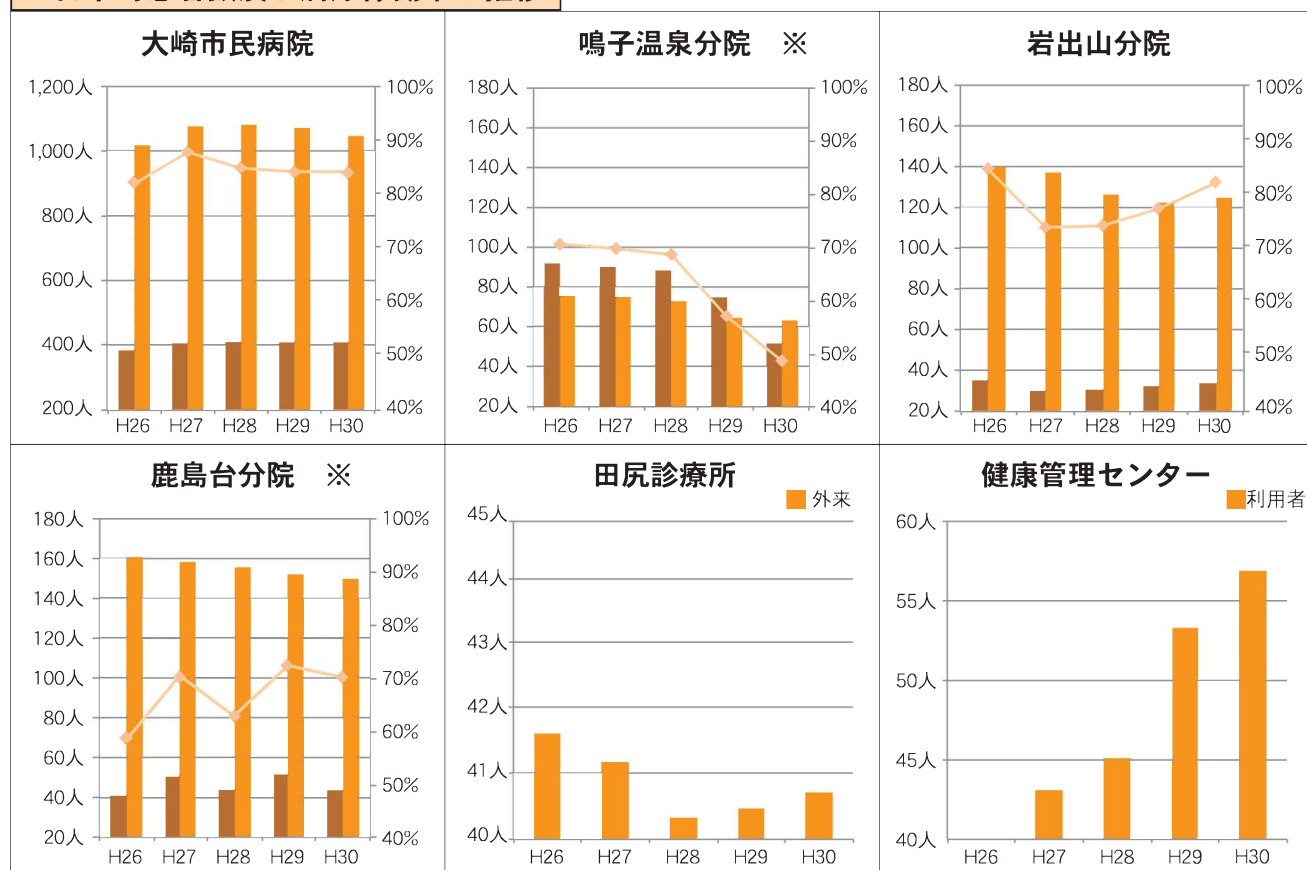


資本的収支〈税込〉



1日平均患者数及び病床稼働率の推移

■ 入院 ■ 外来 ◇ 病床稼働率



※病床再編 (H30. 10. 1 実施) 鳴子温泉分院 130床→80床 鹿島台分院 70床→58床

病院事業全体の業務量

		平成30年度	平成29年度	増減
入院	延べ患者数(人)	197,482	207,769	△10,287
	1日平均患者数(人)	541.0	569.2	△28.2
	病床稼働率(%)	77.7	78.3	△0.6
外来	延べ患者数(人)	350,606	356,960	△6,354
	1日平均患者数(人)	1,427.7	1,454.1	△26.4

健康管理センター年間利用者数

平成30年度(人)	平成29年度(人)	増減(人)
13,915	12,961	954

用語解説

【収益的収支】

医療サービスの提供やこれに付随する事業などで、1年間の経営活動によって生じた収益である「収益的収入」と、これらの収益を生むために要した費用である「収益的支出」の差引額のことをいいます。1年間の病院の経営成績を表し、収入が支出を上回れば「黒字」、下回れば「赤字」となります。

【資本的収支】

医療機器の購入や施設整備に要する費用である建設改良費や、医療機器購入などのために借り入れた企業債の元金返済に要する支出である「資本的支出」から、資本的支出の財源となる企業債や一般会計からの補助金である「資本的収入」を差し引いた額をいいます。

資本的収支不足額は、収益的収支における現金の支出を伴わない費用(減価償却費や資産減耗費など)で企業内部に留保されている資金(損益勘定留保資金)などで補っています。

【病床稼働率】

病院のベッドがどの程度効率的に稼働しているかを示す数字です。100%に近いほど空いているベッドが無い状態で利用されていることになります。病院の経営の質を示す指標として活用されます。